

アグロフォレストリー指導報告書

セッテ・バーラス市リオプレット村

サンカルロス大学のアグロフォレストリー指導チームメンバー

Alexandre Almeida

Fernando Silveira Franco

Juliano Nascimento

Lucas Dellitti

Suzana Alvares

■アグロフォレストリー用のコーヒー、ジュサラ椰子植付前の秋用緑肥植付指導

実施日：2013年4月19日～21日

今回の訪問指導目的及び内容：アグロフォレストリーパイロット圃場を各農家にて設定し進めており、植付前の秋用緑肥を植付けることによって土作りを進める。

- ・グループ活動の推進
- ・緑肥の目的と使用の重要性を議論する。
- ・緑肥植付エリアの選定
- ・圃場での農家への指導
- ・4つの圃場において緑肥或いはアグロフォレストリーの植付

A.会議 2013年4月19日 19:00～21:30

・緑肥及びアグロフォレストリーの植付指導会議を実施した。会議は協会の本部建物で実施した。参加者は Alexandre、Amanda、Erói、Everton、Fernado、Geraldo、Guenji Yamazoe、Juliano、Lourenço、Lucas、Matataias、Nanci、Noriko Tanaka、Olímpio、Paulo、Ronaldo、Suzana の17名。

会議のはじめに参加者は輪になって座り、これまでのプロジェクトの発展的活動について振り返った。

その後まずはじめに、グループ作業でコップを使った討論が行われた。課題としては、右手に水を注いだコップを持ち、腕を曲げてはいけないという条件下でただちに水を飲まなければならないという課題が与えられた。討論の結果をグループの活動状況と比較した。このグループ討論の目的は、グループ活動を自覚させ活発化させるのが目的であった。その結果1人がリーダーシップをとること、組織、協力、相互扶助、共同意識、多様性、蟻の集団行動の例、集団内に1人だけ渴きを感じるものを残さないという結論が導き出された。

グループ討論の後、フェルナンド教授がアグロエコシステムのために緑肥が重要であることや、参加農家の知識の向上や、テーマについての疑問点について説明した。そして次の点について、取り組むこととなった。

- ・ 植付時期とその種類
- ・ 種子の処理
- ・ 植付地区の準備
- ・ 播種方法
- ・ 作業管理
- ・ 試験的栽培の可能性、新たな栽培のための種子採取と管理

山添氏が Versta からの支援として次の緑肥種子が提供されたことを報告した。

- ・ クロタラリア・スペクタビリス 35 kg
- ・ フェイジョン・グアドウ 40 kg
- ・ 緑肥用大根 40 kg
- ・ 白トレモツソ 40 kg

圃場指導の目的は、共同作業によって緑肥を栽培するための試験栽培を紹介することである。2日間の圃場指導の企画のためには参加者の関心事項を聞き、栽培地域は全員で決定した。作業日程を決定し（表 1）、各作業が説明され、使用する農機具がリストアップされ、開始時間と終了時間について合意した。

表 1 圃場指導日程表

日程		農家名
4月20日	午前	Lourenco 氏、Nanci 氏
4月20日	午後	Matatias 氏
4月21日	午前	Geraldo 氏、Sndra 氏
4月21日	午後	Eloi 氏、Bete 氏

会議の終わりには、プロジェクトの参加者による共同作業を継続することの重要性について討議された。



会議風景

会議参加者

■2013年4月20日

B.緑肥の植付 AM8:00~PM18:00

アグロフォレストリープロジェクトに定められた地域の農場で共同作業による準備が行われ、緑肥の植付、在来果樹の植付も行われた。

1) Lourenço氏と Nanci氏の圃場における共同作業と緑肥指導

区画：50m×20m（ププニャ椰子 3m×2m）

ププニャ椰子の間に果実の苗を植え付ける。

資材：20Lの種子（1種類 1kgの種子）、10本の果樹の苗、水、バイオ肥料 Fladen、石灰、リン酸

共同作業参加者：Guenji Yamazoe、田中規子、Lourenço, Nanci, Olímpio, Geraldo

全てのパイロット圃場には Versta から提供された緑肥の種子が使われた。種子及び資材は全て混ぜ合わされ、種子のカクテルをつくり、発芽を促し成長を促進するため種子コーティングを施した。種子コーティングには、水、石灰バイオ肥料 Fladen、リン酸が使われた。水で種子を濡らして、石灰とリン酸に混ぜた。種子コーティングされたものは、ププニャ椰子の列の間に植えられた。果樹の苗木はばらばらに植えられ、その周りに種子のカクテルが播種され、上に枯草がのせられた。

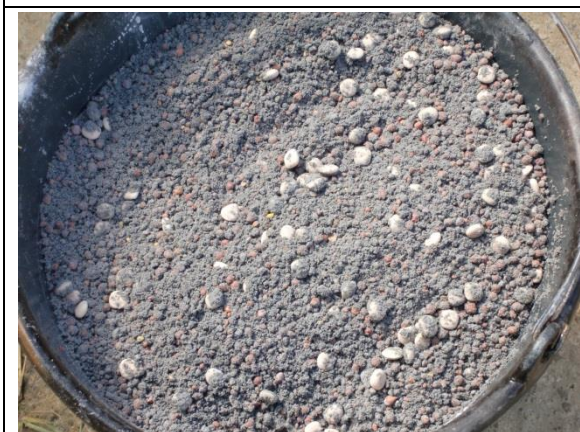
バイオ肥料 Fladen は、植付の後全地域に撒かれた。



緑肥種子のカクテル



種子カクテルにコーティングを施す共同作業



コーティングされ資材と混ぜ合わされた緑肥種子



緑肥の播種



肥料散布中のフェルナンド教授



圃場での作業を終え、共同作業者全員で記念撮影

2) Matataias Dias de Oliveira 氏の圃場における共同作業と緑肥指導

区画：25m×20m (2m×2m 間隔に等高線上に植えられたププニャ椰子)

緑肥種子を混ぜ合わせた混合物をププニャ椰子の列の間に植える。

共同作業参加者：Matataias、Lourenço、Nanci、Geraldo、Olimpio とプロジェクトチームのメンバー

■2013年4月21日

C. 緑肥／アグロフォレストリー植付

3) Geraldo 氏と Sandra 氏の圃場における共同作業と緑肥指導

区画：40m×8m (大西洋岸林の在来樹種が植えられたばかりのアグロフォレストリーの区画で、枯草によるマルチングが施されている)

1m ごとに緑肥のカクテル (混合物：1 種類の緑肥種子につき 2 kg の種子が混ざっている) を条植えする。

共同作業参加者：Geraldo、Sandra、Nanci、Lourenço、Ze bore、Eloi、Gabriel、Olimpio とプロジェクトのチームメンバー
バイオ肥料、緑肥種子を散布した。

4) Eloi 氏と Bete 氏の圃場における共同作業と緑肥指導

区画：40m×8m (アグロフォレストリー圃場で、家の近くの急傾斜の斜面。ププニャ椰子、果樹、キャッサバ、椰子、コーヒーが植えられている)

緑肥のカクテル (1 種類の緑肥種子につき 2 kg の種子が混ざっている) を 1m ごとの条植えにする。

共同作業参加者：Eloi、Bete、Gabriel、Geraldo、Sandra、Nanci、Lourenco、Ze bore、Olimpio、プロジェクトチームのメンバー

D. 次のステップ

今回植付けた緑肥の評価のために次の圃場視察日を企画し、さらに新たな圃場に緑肥を植付けることとした。

以上、報告書作成者 Fernando、Suzana 2013年8月26日作成